



## 地震や台風による 災害が多発するなか 防災に役立つ資機材の 寄贈を続ける

### 船橋遊技場防犯組合 (千葉県遊技業協同組合) 『『災害に強いまちづくり』を支援 ～災害避難体験 VR機材の寄贈～』事業



船橋遊技場防犯組合  
組合長  
織田信幸さん

#### 災害は忘れる前にやって来る今だから 防災に役立つものを継続的に寄贈

日本列島は地球を覆う10数枚のプレートのうち、4枚のプレートがぶつかり合う場所に位置し、それだけ地殻変動が多いのが特徴で、紛れもない地震列島といえる。東日本大震災後も日本各地で大規模な地震がたびたび発生しているわけだが、それに匹敵するような被害をもたらすとされている南海トラフ地震の発生確率について、国は「今後30年以内に70～80%の確率で発生する」と指摘している。さらに温暖化が原因と思われる気候変動によって、日本は毎年のように大規模な水害や土砂災害に見舞われている。巷間でいわれているように、「災害は忘れる前にやって来る」というのが実状であろう。

そんな状況のなかで、地震や水害などの被害を最小限に食い止めるには、それぞれの地域で日頃から防災意識を高め、防災対策を整えておくほかない。千葉県遊技業協同組合を構成する支部組合の一つである船橋遊技場防犯組合では、1995年に発生した阪神淡路大震災を教訓に防災対策の重要性を認識し、これまで船橋市が行う防災対策事業を積極的に支援してきた。2003年から毎年継続して、約150万円から1,000万円の予算をとり、船橋市に対して防災や災害時に必要な資材・機材の寄贈を行ってきた。これまでに同組合から贈られたものとしては、例えばハザードトーク（無線機）、ドローン、リヤカーなどがあり、防災や実際の災害時に役立てられている。



船橋市役所で行われた寄贈式

#### 仮想世界のなかで災害現場からの避難を リアルに体験できる避難体験VR

防災意識を高めるためには、どれだけ災害というものに対してリアルな感覚や危機意識を高めておくかが重要であり、避難訓練などもより実践的なものが求められている。そうした動きを受け、同組合では2020年度、船橋市に対して「避難体験VR（バーチャルリアリティ）」を計4台（PC版1台／ソフトウェア2ライセンス〔火災・水害〕、スマホによるムービー版3台／ソフトウェア2ライセンス〔地震・水害〕）寄贈した。

この避難体験VRは、コンピュータの中に作られた仮想世界の水害や火災現場からの避難を、あたかも現実のように模擬体験できる防災訓練用の機材である。頭部に専用のヘッドマウントディスプレイを装着することで、臨場感のある地震や火災、水害の現場を疑似体験できる。例えば火災では、実際にしゃがみ込むことで煙を避けたり、ハンカチで口を抑える動作で前に進んだり、あたかも現実の災害現場にいるような感覚で避難行動を確認できる仕組みとなっている。

2020年3月に船橋市役所で行われた寄贈式には、松戸徹船橋市長と織田信幸組合長を始めとする同組合理事らが出席した。当日、織田組合長からは、「船橋の防災に強いまちづくりにどう貢献できるか考えました。災害に強い船橋になるために是非ご活用ください」との挨拶があった。PC版の水害のケースを疑似体験した市長からは、「映像がリアルですね。市民の防災訓練に活用していきたいと思います。ありがとうございました」と、感謝の言葉が述べられた。この避難体験VRは、町会・自治会などへの出前講座や市内の学校などでの防災学習、地域の総合防災訓練などで活用されている。